

第1学年2組 国語科学習指導案

授業日 平成28年6月23日(木) 2校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 桑原 浩二

会場 1年2組教室

1 単元名

成長マイブックを作ろう！ 一角田山登山ー

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領における第1学年及び第2学年の「B 書くこと」(1)目標「経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる」ならびに(2)内容①指導事項の「A 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること」を受けて、学習指導要領解説国語編に示された次の内容に基づいて設定する。

〔B 書くこと〕 第1学年及び第2学年 (1)目標の解説

書くことの指導においては、高学年までに目的や意図に応じて適切に表現する能力を育成するとともに、それらが日常生活に生きて働くようにすることを求めている。日常生活における活動や、生活科その他の教科等における学習活動などに関連付け、書くことが役に立つ場を設定することが大切となる。(後略)

本単元では、自分の成長を捉えて、そのときの気持ちや様子を具体的に書き表すことができるようになることをねらいとする。出来上がった文章は、成長の記録である「成長マイブック」に綴じ込む。子どもは文字の読み書きに慣れてきており、また、日常的に行っている日記を書く学習を受けて、もっと書きたい、書いて伝えたいという意欲を高めている。書くことに対する相手意識及び目的意識を明確にし、表現の基礎となる力を育てたい。

本単元には、次の二つの価値がある。

一点目は、学習指導要領の〔B 書くこと〕において第1学年及び第2学年の目標に示されてる「進んで書こうとする態度」を育成するために適していることである。おうちの人に自分が書いた文章が伝わったという経験をさせることで、書くことに対する自信をもたせ、自分の思いを伝えることができる楽しさを味わわせたい。角田山登山を通して一回り大きくなった自分をおうちの人に知ってもらいたいという思いを進んで書こうとする態度へつなげる。

また、上掲の目標の解説には、「進んで書くことによって表現する喜びを育てていくことは、よりよく表現したいという願いをもつことにもつながっていく」とある。これは、本単元における目指す姿と合致する。書くことで表現する喜びを知った子どもは、よりよく表現しようと自分の文章を常に読み返すようになる。

二点目は、感情及び情緒の側面を養うことに適していることである。国語ワーキンググループでの検討で「思考力・判断力・表現力等」に示されている「言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力」を育成する上で、入門期の子どもにおいて角田山登山は、まさに書いて伝えるためにふさわしい題材といえる。そのような感動的な体験を文章に書くことは、「学びに向かう力、人間性等」として挙げられている「様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度(自分の感情をコントロールする態度)」の育成に直結する。

なお、本単元では、国語科、道徳、生活科を意図的に組み合わせた単元構成とすることで、教科等を横断する資質・能力を発揮させる。教科等を横断する資質・能力を発揮しながら課題解決をする過程で、子どもは自分の成長に気付くのである。そして、成長マイブックに自分の成長を記録し、おうちの人に伝えることを通じて、表現する楽しさを味わうことのできる単元である。

3 本単元で目指す姿

角田山登山の前後の気持ちや様子を比較関係付け、自分の成長が伝わるように書き表す子ども

具体的には、やまびこシートを用いて角田山登山前後の気持ちや様子を比較関係付けることで、「ぼくは、角田山に登る前から最後まで登れるか心配でしたが、さとしさんが、『たろうくん、一緒に歩こう。』と言ってくれたので、元気が出て、頑張って登り切ることができました。」や「ぼくは角田山に登る前、きれいな景色を見ることを楽しみにしていました。下りる途中で本当にきれいな景色を見ることができました。頑張って登ったからだと思いました。」などと、できなかったことができるようになった記述や期待していた以上の思いに気付いた記述をする子どもである。

4 本単元で育む資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全6時間(180)

単元カード参照

6 指導の構想

本単元は、愛情を注いでくれるおうちの人に向けて、自分の成長の記録である「成長マイブック」を作っていく活動を通し、大きくなるということはどんなことか、成長するとはどういうことかに気付かせる。成長マイブックは、1年間の成長の記録として、成長が伝わる文章や絵を綴じ込んでいく。

まず、国語科の単元に入る前に、道徳の題材である「ありがとうファミリー」において、おうちの人について考えさせる。普段、おうちの人がどのようなことをしてくれているのかを思い出させることで、おうちの人自分たちのために様々な愛情を注いでいることに気付かせる。このとき、**父母、祖父母の支えがあって生きていることを考える見方や考え方(資質・能力 道③)**を発揮させる。こうすることにより、本単元の柱である成長マイブックをおうちの人に伝えたいという明確な相手意識をもたせることができる。

次に、生活科の単元である「大きくなるっていうことは」と関連させ、やまびこシートを用いて**ツール活用能力(資質・能力 生②)**を発揮させながら、自分の成長について考えさせる。その際に、**前の自分と今の自分とを比べ、自分の成長を見付けさせたり(資質・能力 生③)、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活していく態度(資質・能力 生④)**を発揮させる。

成長マイブックを作り、おうちの人に自分の成長を伝えようという相手意識と目的意識をもった子どもに、国語科の単元「こんなことしたよ」として角田山登山の文章を書く学習を出合わせる。子どもは、書こうとする意欲を高め、角田山登山を通して成長したことを文章に書き表す。この文章を成長マイブックの1ページにする。

ただし、この段階での子どもは書こうとする意欲が高いものの、実際には、「したこと」と「自分の気持ち」で構成される2～4文程度の文章しか書けない状態であると考えられる。または、「始めに・次に・最後に」などと順序を表す言葉を用いて書いてはいるが、したことの羅列に終始し、そのときの気持ちや様子が詳しく書かれていない。

そこで、1回目の文章を書かせるために、やまびこシートを活用させる。ここで、**やまびこシートを使い、書こうとする題材に必要な事柄を集めさせ、簡単な構成を考えさせることでツール活用能力(資質・能力 国②)**を発揮させる。子どもは、**植物及び生き物の様子や特徴を捉え(資質・能力 生①)**、「登山中」「頂上」「下山中」等の気持ちや様子を思い出しながら、それらを青色の付箋に書き、順序を意識してやまびこシートに貼っていく。その後、やまびこシートを基に**語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書く(資質・能力 国①)**。1回目の文章は4～8文程度であると考えられ、「したこと」のみの文章もしくは「したこと」と「自分の気持ち」の両方が入っている文章のどちらかに大別できる。子どもは、1回目の文章を書き終え、ある程度の満足感を得ている。しかし、1回目の文章には、成長マイブックに綴じ込むために必要な要件となる自分の成長が書かれていないと考えられる。自分の成長を文章中に書き表していない子ども(C0)に、次のように働き掛ける。

働き掛け1

1回目の文章は、自分の成長が伝わる文章になっているかを問う。

これは、学習に対する問いをもたせるための働き掛けである。

1回目の文章を書き終えて満足している子どもに、成長マイブックへ綴じ込むために必要な要件である自分の成長が伝わる文章になっているか、「1回目の文章は、おうちの人に自分の成長が伝わる文章になっていますか」と問う。すると子どもは文章を読み返し、自分の文章は角田山登山を通して成長したことが伝わるかどうかを**父母、祖父母の支えがあって生きていることを考える（資質・能力道③）**を發揮しながら考える。このように、自分の成長が伝わる文章になっているかどうか考える姿を問いをもった姿とする。この段階においては、ほとんどの文章において成長したことについての記述が見られない。なお、成長についての記述というのは、角田山登山を通して、できなかったことができるようになった記述や期待していた以上の思いに気付いた記述のことを指す。その後、「自分の成長が伝わる文章にするためには、どのように書けばよいのだろうか」という課題を提示する。

働き掛け2

登山前に考えていた「心配なこと」「楽しみなこと」「やってみたいこと」が書かれてあるワークシートを提示し、登山前の気持ちや様子を整理させる。

これは、学習に対する見通しをもたせ、自分の成長に気付くために必要な前の自分の気持ちや様子を収集させるための働き掛けである。

どのように書けばよいかと問いをもった子どもに登山前に書いたワークシートを配付し、「心配なこと」「楽しみなこと」「やってみたいこと」を振り返らせる。子どもは、自分の成長に気付くために必要な登山前の気持ちや様子を思い出し、「おいていかれたり、はぐれたりするのではないかと心配していた」などと赤色付箋に書く。そして、その付箋は、「登山中」「頂上」「下山中」のどの場面における気持ちや様子を表すのか、時系列に気を付けながらやまびこシートに沿って貼っていく。やまびこシートの内側に貼っていく。こうすることで、自分の成長を書き表すために必要な事柄を収集していく。このとき子どもは、**やまびこシートを使い、書こうとする題材に必要な事柄を集めたり、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えたりするツール活用能力（資質・能力 国②）**を發揮する。

働き掛け3

赤色付箋と青色付箋とを比較関係付けた理由を問い、2回目の文章を書かせる。

これは、自分の成長に気付かせ、理由を引き出すための働き掛けである。やまびこシートに青色付箋と赤色付箋とを貼り付けた子どもに、「この中のどの付箋を使えば、成長したことを伝えられるでしょうか」と問う。子どもは、やまびこシート上の赤色付箋と青色付箋とを操作しながら、「友達と協力して切り切った」などという青色付箋（角田山に登った後の自分）と「頂上まで登れるか心配」などという赤色付箋（角田山の登る前の自分）とを比較関係付け、理由を書く。**前の自分と今の自分とを比べて関係付け、自分の成長を見付ける（資質・能力 生③）**という見方や考え方を發揮し、「**ぼくは、角田山に登る前から最後まで登れるか心配でしたが、さとしさんが、『たろうくん、一緒に歩こう。』と言ってくれたので、元気が出て、頑張っけて切り切ることができました**」などと記述する。これが、角田山登山の前後の気持ちや様子を比べ、自分の成長を書き表す子ども（Cn）である。

自覚のための働き掛け

2回目の文章を読み返させ、自分の成長が伝わる文章を書けた理由を問う。

これは、様々な資質・能力を發揮したことで、課題を解決できたことを自覚させるための働き掛けである。子どもは、1回目の文章と2回目の文章とを読み比べることにより、2回目の文章の方が自分の成長が伝わることに気付く。そのような子どもに対して、「どのように書くと自分の成長が伝わる文章になるのですか」と問うことで、前の自分と今の自分とを比較すると自分の成長が見えてくることを捉えさせる。子どもは、「2回目に書いた文章の方が、成長したことが伝わるな。登山の前後の気持ちや様子を比べたことで成長したことに気付いたよ」などと様々な資質・能力を發揮したこと

により課題解決ができたことを自覚する。2回目の文章を成長マイブックに綴じ込み、おうちの人に向けて交流会を行うことで、子どもは書いて伝えることのよさを実感する。

7 本時の構想 (本時 4/6時間)

(1) ねらい

角田山に登る前後の気持ちや様子を比較関係付けることを通して、できなかったことができるようになったことや期待していた以上の思いに気付いたことを書き表すことができる。

(2) 主張(展開) 3Q (45分)

このような子どもに (C0)

- 「今日は、昼休みに花子さんとおにごっこをしました。楽しかったです。」等と毎日の連絡帳でおうちの人へ伝えたいことを「したこと」「そのときの気持ち」の2～4文程度で書いている。
- おうちの人に向けて楽しかった角田山登山を報告するための文章を自分の成長が伝わるように書くという相手意識と目的意識をもっている。書こうとする意欲が高まっている。
- やまびこシートを使って題材に必要な事柄を集め、簡単な構成を考えた上で、1回目の文章を4～8文程度で書いている。
- 1回目の文章には、角田山登山で「したこと」のみもしくは「したこと」と「そのときの気持ち」の両方が入っている。

このように働きかけると【働き掛け1-①】

- 1回目の文章は、自分の成長が伝わる文章になっているかを問う。
 - ・説明「成長マイブックには、自分の成長を綴じ込んでいくのでしたね」
 - ※ 成長マイブックの要件である「成長」を確認する。
 - ・発問「1回目の文章は、おうちの人に自分の成長が伝わる文章になっていますか」
 - ※ 近くの子ども同士で話し合わせた後、全体に挙手を求める。
 - ※ 補助発問「どうして自分の成長が伝わらないと思ったのですか」

このようになり (C1-①)

- 問いをもつ。
 - ・成長が伝わる文章になっているかどうかよく分からないな。書いているつもりだけど。
 - ・自信がないな。どうしたらよいのだろう。

このように働きかけると【働き掛け1-②】

- 何を書けば自分の成長が伝わるかを問う。
 - ・問い「どのようなことを書けば自分の成長が伝わるとおもいますか」
 - ・指示「多くの人が悩んだり迷ったりしているのは、『おうちの人に自分の成長が伝わる文章にするためには、どのように書けばよいか』ということですね。それでは、次の国語の時間では、このことを考えていきましょう」

このようになり (C1-②)

- 見通しをもつ。
 - ・幼稚園のときにはできなかったけど、小学生になってからできるようになったことです。
 - ・前の自分ではできなかったことを書けば、成長が伝わるよ。

-----本時ここから-----

このように働きかけると【働き掛け2】

- 登山前に考えていた「心配なこと」「楽しみなこと」「やってみたいこと」が書かれてあるワークシートを提示し、登山前の気持ちや様子を整理させる。

- ・説明「成長したことに気付くためには、前の自分を考えたいということでしたね」
- ・発問「みなさんが登山前に考えていたことは、どんなことでしたか」
- ※ 登山前の気持ちや様子をペアで話し合わせる。
- ※ 登山前に記入したワークシートを配付する。
- ・指示「みなさんが角田山に登る前に考えていた『心配なこと』『楽しみなこと』『やってみたいこと』を赤い付箋に書いて、順序よくやまびこシートに整理していきましょう」
- ※ 赤色付箋を配付し、角田山に登る前に考えていた「心配なこと」「楽しみなこと」「やってみたいこと」「見たこと」を赤色付箋に書かせ、やまびこシートの内側に貼らせていく。

このようになり (G2)

- 登山前の気持ちや様子を想起して赤色付箋を書き、事柄の順序に沿って赤色付箋を貼る。
- ・登れなかったり、友達とはぐれたりすることを心配していたな。これをやまびこシートの登山前のところに貼ろう。
- ・登山前は、山を下りている途中でたくさん転ぶかと不安だったな。これをやまびこシートの下山中のところに貼ろう。
- ・頂上からきれいな景色を見ることを楽しみにしていたな。これは、やまびこシートの頂上のところに貼ろう。
- ※ のように赤色付箋を書いて、 のように赤色付箋をやまびこシートへ時系列に貼る姿が見られたら、資質・能力 国②を発揮したとみなす。

このように働き掛けると【働き掛け3】

- 赤色付箋と青色付箋とを比較関係付けた理由を問う。
- ・説明「登山前の気持ちや様子をたくさんの方の赤色付箋に書き、貼れましたね」
- ・発問「どの付箋を使えば、成長したことを伝えられるでしょうか」
- ※ どの付箋を使うか、近くの子とも同士で話し合わせる。
- ※ 選んだ付箋の理由が不明確な場合は、具体を問い返したり、言い換えさせたりする。
- ※ 選んだ付箋は、別の場所に貼り直させる。
- ・指示「黄色の付箋に理由を書き、選んだ付箋の隣に貼りましょう」
- ※ 黄色付箋を配付し、青色付箋と赤色付箋に脇に黄色付箋を貼らせる。
- 2回目の文章を書かせる。
- ・指示「それでは、やまびこシートを基に、2回目の文章を書いてみましょう」
- ※ 2回目の文章を書かせるために用紙を配付する。

このようになり (Gn)

- 登山の前後の気持ちや様子を比較関係付けることで、成長することができた理由を考える。
- ・「最後まで登れるか心配」という赤色付箋と「頑張って登り切ることができた」という青色付箋をつなげると、自分の成長が伝わるな。それは、さとしさんが、「たろうくん、一緒に歩こう。」と言ってくれたので元気が出たから。
- ・「きれいな景色を見ることを楽しみにしていた」という赤色付箋と「下りる途中で本当にきれいな景色を見ることができた」という青色付箋をつなげると、自分の成長を伝えられそうだぞ。なぜなら、友達と協力して頑張って登ったから。
- ※ 「できなかったことができるようになる」「期待していた以上の思いに気付く」といったように赤色付箋(前の自分)と青色付箋(今の自分)とを比較関係付けていたら、資質・能力 生③を発揮したとみなす。
- 2回目の文章を仕上げる。
- ・6月10日に、下学年のなかよし班の友達と角田山に登りました。はじめに、山に登りました。たくさん階段ありました。ぼくは、角田山に登る前から最後まで登れるか心配でしたが、さとしさんが、「たろうくん、一緒に歩こう。」と言ってくれたので、

元気が出て、頑張って登り切ることができました。

次に、角田山の頂上でなかよし班の友達とおにぎりを食べました。おにぎりの中には赤い梅干しが入っていて、とてもおいしかったです。

最後に、山を下りました。ぼくは角田山に登る前、きれいな景色を見ることを楽しみにしていました。下りる途中で本当にきれいな景色を見ることができました。友達と協力して頑張って登ったからだと思いました。海まで見えました。

なかよし班の友達と力を合わせて角田山に登ることができて、とても楽しかったです。また角田山に登りたいです。

※ 「できなかったことができるようになった」記述や「期待していた以上の思いに気付いた」記述と、 のように、その理由が記述されていたら、目指す姿になったと判断する。

----- 本時ここまで -----

このように働きかけると【自覚のための働きかけ】

- 2回目の文章を読み返させる。
 - ・指示「みなさん、2回目の文章を書きましたね。1回目の文章と2回目の文章とを比べて、2回目の文章は、自分の成長が伝わるか読み返してみましょう」
- 自分の成長が伝わる文章を書けた理由を問う。
 - ・発問「どのように書くと自分の成長が伝わる文章になるのですか」

このようになる

- 1回目の文章より2回目にした文章の方が、成長したことが伝わりと実感する。
 - ・2回目の文章には、友達とはぐれるのではないかと登山前に考えていたことを書いたの、なかよし班の友達と協力して頂上まで登れたことが自分の成長として伝わるよ。
 - ・頂上からきれいな景色を見ることを楽しみにしていたという登山前に考えていたことを書いたことで、頂上から見た景色が思っていたよりもさらにきれいだったことが伝わると思う。
- 様々な資質・能力を発揮したことで、課題解決できたことを自覚する。
 - ・角田山登山のときの気持ちや様子を表す文章を書いて、うれしかった。前の自分と今の自分とを比べると自分の成長を見付けることができるよ。

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働きかけにより、想定したC nになったか。
- ② 構想した働きかけにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働きかけ3を受けて、「できなかったことができるようになった」記述や「期待していた以上の思いに気付いた」記述と、 のように、その理由があるかどうかを2回目の文章内容から判断する。
- ② 働きかけ2、3を受けて、次のような姿が見られたかどうかをやまびこシートから判断する。
 - ア のように赤色付箋を書いて、 のように赤色付箋をやまびこシートへ時系列に貼る姿が見られたら、資質・能力 国②を発揮したとみなす。
 - イ 「できなかったことができるようになる」「期待していた以上の思いに気付く」といったように赤色付箋（前の自分）と青色付箋（今の自分）とを比較関係付けていたら、資質・能力 生③を発揮したとみなす。
- ③ 自覚のための働きかけを受けて、 のように発揮した資質・能力を自覚することができたかを、やまびこシート及び1回目・2回目の文章、子どもの発言、VTRから判断する。